

新聞に関心示す児童増

実践校1年目。児童がいつでも新聞に親しめるよう、廊下のベンチそばに置いている。階段には切り抜いた記事も掲示。



城上小学校（薩摩川内市）

た記事も掲示。よむのびコンクールやひろば欄などへ、積極的に投稿するようにになった。

学年ごとに新聞に関する目標を設定している。授業では新聞を使った言葉探しや読み方の学習、複数紙の比較に取り組む。「オセモコや最近の話題の記事を読む」と4年の猿渡仁愛さん。難しいところは先生に聞いているという。

教員は記事に振り仮名や要約文を付けたりして、関心を引く工夫を凝らす。片平嘉文教頭(55)は「どんな記事が載っているか興味を持ち、新聞を手取る児童が増えた。読解力や思考力の向上につなげたい」と話す。

（田上恵以）

廊下の椅子で新聞を読む児童たち
＝薩摩川内市の城上小学校

鹿児島県内で2024年度にNIE（教育に新聞を）実践校に指定された13校が、新聞を活用した授業などに取り組んだ。各校が進める活動や授業の様子を紹介する。

かごしま NIE 実践校

帰りの学活で記事紹介

独自のワークシートで新聞記事を読み解く「学力アップセミナー」を年15回実施する。校長や教頭も含む



牧之原中学校（霧島市）

教員が交代で記事を選んで問題を作成。生徒は、まず一人で解いた後、グループの仲間と答えや感想を話し合う。南日本新聞の「若い目」への投稿にも挑戦し、1月の若い目賞に選ばれた。

2年生は、帰りの学活で、1人が気になった記事を取り上げ、気付いたことなどを発表する。20日は東村佳緒さんが、雑草を発電に生かす技術の記事を「災害時に役立つってほしい」と紹介。「科学系の記事に興味がある」と話した。

NIE担当の濱崎てるみ教諭(53)は「セミナーも発表も、それぞれ着目する記事に個性が出る。毎回楽しみ」。

（有田佳織）

帰りの学活で新聞記事を紹介する生徒
＝霧島市の牧之原中学校